

## ぼんすけ米作り、2年目に突入！ 2018/4-10

シナイモツゴのため池から水を引いている田んぼが最近放棄されてしまったため、ぼんすけ育成会が2017年に借り受け、米作りをやっています。当会スタッフもお手伝いしています。2年目となる2018年の米作りは、猛暑の影響で収穫時期が早くなりましたが、全体の収穫量は増えました。2019年は作付け面積を増やし、耕作活動をパワーアップしていく予定です。



【2018/9/18】「ぼんすけ米」の刈り取りとはぜ掛け

### 生態工房・信里クラブ 2019年度会費納入のお願い

信里のシナイモツゴと水田生態系を保全するため、当会は2017年からぼんすけ育成会と協同して、シナイモツゴの生息池とつながる田んぼやため池の管理・再生に取り組んでいます。この活動を行うための道具類（胴長靴、バケツ、網等）や移動費は〈生態工房・信里クラブ〉の会費によって支えられています。

2019年度も信里クラブの会員継続をお願いします。非会員の方はぜひ入会をご検討ください。お支払い方法は同封の【郵便振替用紙】か、クレジットカードによるweb決済、銀行振込等があります。詳細は生態工房ホームページをご覧ください。

**生態工房・信里クラブ会費 3,000円/年**（4月～翌3月までの単年度制）

信里クラブ会費は生態工房への寄附金として、所得税寄附金控除の対象になります。

生態工房 信里クラブ 検索

発行者：認定NPO法人 生態工房

〒180-0004 東京都武蔵野市吉祥寺本町 4-9-22 フラット K101

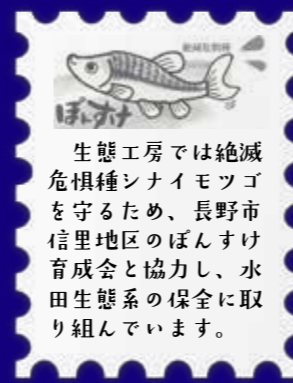
Tel&Fax：0422-27-5634 Email：eco@eco-works.gr.jp

URL：http://www.eco-works.gr.jp/



ぼんすけ育成会

http://ponsuke.cybernetwork.jp/



# The Nobusato Club



生態工房・信里クラブ 2018年度活動報告  
発行者：認定NPO法人 生態工房  
http://www.eco-works.gr.jp/



### Report 1

## 信里小学校 <大トトロ池> のかいぼりをサポート

2018/10/12

2018年10月、長野市立信里小学校の「大トトロ池（おおととろいけ）」でシナイモツゴの保全と里山文化の継承・学習を目的とした、学校主催のかいぼりが行われました。

大トトロ池は信里地区の中心部にあって、シナイモツゴも生息しています。昭和初期に個人から小学校へ寄贈され、当初は学校のプール用水を一時的に溜める池だったそうです。現在では学校の田んぼ用水として活用されています。しかし近年は池の管理を目的とした定期的な水

抜きやかいぼり（\*1）が行われなくなり、堤体も崩れ始め、コイなどの影響による水質悪化も目立つようになりました。

そうしたなか、ぼんすけ育成会副会長の中野 繭さん（信州大学）が池からコイやソウギョを取り除き、シナイモツゴの生息環境を回復させることを学校側に提案しました。これを受けて同校ではぼんすけ育成会と生態工房のサポートによって大トトロ池の水を抜き、児童らが魚類捕獲作業を行うことになりました。

## ◆かいぼりでため池の機能回復

大トトロ池のように長らくかいぼりや水抜きをやっていた池では、樋 (\*2) の位置や形状が地域の方たちでも分からなくなっている場合が多いです。当会では、こうした歴史ある池でのかいぼりは、地域の方たちがため池の多面的価値を再認識してもらう機会になると考えています。このため、排水方法はなるべくエンジンポンプを使わず、先人たちが行ってきた樋抜き (\*3) を再現するようにしています。樋を使った自然排水だと池底に溜まった泥も一緒に排出できるので、かいぼり効果もさらに高まります。幸い、大トトロ池には上中下の高さで池底に計4段階の樋 (\*4) が設置されていて、池の外には立派な排水バルブ (\*5) と沈砂槽 (\*6) が使用可能な状態で残っていました。当池ではこれらの排水設備を活用して、効率的な水抜きを行うことができました。



【大トトロ池の樋】

岸から池底までコンクリート階段が設置されていて、そこに4段階の水位で樋が取り付けられていた。これだけ立派な排水設備がある池は、この地区では珍しい。

\*1: 信里地区では「かいぼり」という言葉は一般的ではなく、「泥上げ (どろあげ)」「泥除け (どろよけ)」という。

\*2: 「ひ」と読む、信里地区では「樋野 (ひの)」とも言う。池の中にある排水栓のこと。

\*3: 樋を開けて排水すること。

\*4: 一番下の樋を「底樋 (そこひ)」と言う。信里地区では「下樋野 (したびの)」とも言う。

\*5: 下流への排水量を調節する装置。

\*6: 樋から排水した池水を一時貯留し、泥を沈殿させて上澄みを下流へ流す箱型装置。



【魚捕り終了後の水抜き状況】 上から3番目の樋を開放したら、通常水位時と比べて9割以上の池水がなくなった。



【魚捕りイベント】 全校児童44名が池に入り、シナイモツゴ、ギンブナ、コイ、ソウギョ等を捕獲

## ◆シナイモツゴの保護

水抜き開始から2日後の10月12日、コイの引っ越しとシナイモツゴを保護するための魚捕りイベントが行われました。当日は全校児童44名が池に入り、教職員、保護者、ぼんすけ育成会と生態工房メンバー、信州大生らが子どもたちの捕獲作業をサポートしました(1面および上部の写真参照)。また、4年生は事前学習として、中野さんからシナイモツゴの生態とため池管理の目的や手法に関する授業を受けていました。

子どもたちはかいぼりを見るのも初めて、大トトロ池に入って魚採りをするのも初めてでした。最初は岸辺の浅いところから水面に手を伸



ばしてタモ網を振り回していましたが、徐々に泥の中へ進入。後半は、腰まで泥に浸かりながら、池全体を縦横無尽に動き回っている子もいました。さすが信里っ子、授業で田んぼや畑をやっているだけのことはあります。

当池で捕獲したシナイモツゴは信州大で一時保管、コイは小学校内のコンクリート池に引っ越し、その他の外来魚は池に戻さず、駆除しました。

今回は先生と子どもたちだけで、かいぼりがやれそうです。当会ではこれからもぼんすけ育成会と協力し、大トトロ池の定期的な管理をサポートしていきたいと考えています。

## Report 2

## シナイモツゴのため池3ヶ所でかいぼりと水草刈り 2018/11/7,8

2018年のぼんすけ育成会による調査によってシナイモツゴの生息が確認されたため池で、同会メンバーと信州大生、生態工房スタッフが、池の排水と水辺の整備を行いました。まず、ため池の機能回復と貯水量向上のため、底樋 (\*4) を開けて池底の泥水を排出しました。そうして水位が下がったところで、当会スタッフらが池に入り、岸辺に繁茂したマコモやヨシを刈り取りました。

